

## I 学校の概要

明日も行きたくなる学校づくりプロジェクト事業

### さぬき市立長尾小学校

#### ◆児童及び教員数

○児童数

第1学年	第2学年	第3学年	第4学年	第5学年	第6学年	特別支援	全校
2学級 60名	2学級 46名	2学級 55名	3学級 71名	2学級 46名	3学級 70名	6学級 32名	20学級 380名

○教員数 29名

#### ◆学校の特徴

本校では、「豊かに自立する子どもを育てる」という教育目標のもと、「思い合いの心と自主性の育成」を目指して教育活動に取り組んでいる。

児童は素直で明るく、あいさつ運動や児童主体の活動に熱心に取り組んでいる。また、1～6年生の縦割り班や異学年での様々な活動を通して、思いやりの心や、進んで友達と関わろうとする態度が育ってきている。しかし一方で、過去5年間の「暴力行為」「いじめ認知」「不登校」は、一定数で推移しているとともに、自分に自信がもてなかったり、友達との関係がうまく築けなかったりすることで、学校集団に入りづらく思っている児童は、増加傾向にあると実感している。

そこで、互いの個性や多様性を認め、学校で安心して過ごせる「居場所づくり」「絆づくり」を今年度も継続して推進し、自己有用感や自尊感情を高めることで、児童・保護者・地域にとって「明日も行きたくなる学校」「明日も行かせたくなる学校」となるよう取組を進めていきたい。

## II 研究主題等

研究主題

### 子どもが主語となる魅力ある学校を目指して

#### ◆研究主題設定の理由

従来、学校教育は指導者視点で考えられることが多かったが、それでは、「豊かに自立する子どもを育てる」ことにはつながらない。児童一人一人が主語となり、自ら行動し、ともに認め合い、高め合おうとする態度を育てることで、魅力ある学校になるのではないかと考えた。

本校では「ときめき」「えがお」「げんき」をスローガンに掲げ、教育実践を行っている。児童にとって魅力ある学校づくりを目指して、教職員一丸となって取り組んでいる。また、一昨年度より「一人一人の子どもを主語にする授業」をテーマに研究を進めている。教師主導型の受け身の授業ではなく、児童が自らの学びを調整する学習を目指して取り組んでいる。さらに、授業以外でも、みんなが安心・安全に過ごすことができる学校、みんながなかよく思いやりの心を大切にできる学校づくりに向け、児童が主体となって企画を考えたり、ルール作りをしたりすることを通して、自分たちの学校を自分たちで創るという意識を高めながら、「明日も行きたくなる学校」の実現を目指したい。

## ◆研究内容及び方法

### ①いじめ等のない安心して学べる学校づくり

- ・教職員の情報共有や共通理解により、教職員全体ですべての児童にかかわり、対応する体制づくりをする。
- ・学期1回の「一人で悩まないでアンケート」や課題予防的な教育相談の実施による早期発見、早期対応に努める。
- ・人権について考える「えがおいっぱい週間」や学んだことを広く発信する「えがおいっぱい集会」の実施により、仲間づくりと人権意識の育成を推進する。
- ・校区内の中学校・小学校・幼稚園等と連携し、人権にかかわる内容について授業実践をしたり、討議をしたりすることを通して、人権意識を高める。

### ②心の小さなSOSの早期発見・早期対応

- ・学期1回の児童アンケート「先生あのねレター」とすべての児童を対象に教育相談を実施する。
- ・SCと児童の定期的な面談を行い、些細な変化や、小さなSOSに気付けるよう努める。
- ・SCと担任が連携して、「こころの授業」を行う。
- ・SC、SSW、心の教室相談員等と確実な情報共有による連携の強化を推進する。
- ・教職員が積極的に危機のサインに気付こうとする姿勢をもつ。
- ・学級担任が生徒指導主事等と協力し、課題解決が行えるよう、機動的連携型支援チームで対応する。

### ③児童にとって魅力ある学校づくり

- ・「魅力ある学校とはどんな学校か」について、児童・教職員・保護者等にアンケートを実施し、それぞれの思いを擦り合わせながらよりよい学校づくりを目指す。
- ・「一人一人の子どもを主語にする授業」を実践することで、主体的に学習に取り組む児童の育成を図る。
- ・自ら考え選択し、決定する、あるいは発表する、制作する等、自己決定の場を提供する授業づくりを行う。
- ・児童が「自分も一人の人間として大切にされている」という自己存在感を実感できる授業づくりを行う。
- ・自らの学びを振り返り、学習内容を選択する時間を設定することにより、自己調整力の育成をめざし、学習意欲向上を図る。(長尾っ子スタディ、長尾っ子タイム)
- ・自他の個性を尊重し、相手の立場に立って考え、行動できる相互扶助的で共感的な人間関係を育成する授業づくりを行う。
- ・お互いの個性や多様性を認め合い、安心して学べる授業づくりを通して「居場所づくり」「絆づくり」に努める。
- ・「ときめき」「えがお」「げんき」の教職員専門部会を中心とした学校運営を通して、子どもたちにとっても教職員にとっても魅力ある学校を目指す。
- ・児童会活動を中心に、児童主体の活動やチャレンジする活動を推進し、自己有用感を高め、主体的に関わる態度の育成を図る。
- ・異学年グループ「なかよし班」での常時活動を推進することで、互いに思い合う心や尊敬、感謝の心を育てる。

## Ⅲ 研究成果の普及方法

- ① 学校だよりや学年だより等で、取組の概要や推進状況を保護者に知らせる。また、ホームページ等で研究成果を公表する。
- ② 地域や保護者に授業や学校行事等を公開し、研究成果を公表する。
- ③ 「香川の教育づくり発表会」で研究成果を発表する。